

Abstract

テロ対策における軍の役割

片山善雄

テロは戦争ではなく犯罪であって、治安維持の対象であり、警察的方法がテロ対策の核となる。テロリストの加害能力が飛躍的に上昇した今日、軍事力行使という選択肢を保持しておくことは必要だが、細心の注意を払って考慮されるべきであろう。危機管理の局面における警察と軍との関係は、本質的に軍は警察を支援するのであり、取って代わるのではない。軍は警察を必要に応じて支援はするが、主務機関ではないということは、民主主義国で受け容れられている原則である。したがって、軍を治安維持に活用する際には、警察主導の原則を貫くことが肝心である。また、たとえ警察の指揮下であっても、法執行の最前線に軍が出ることには慎重でなければならない。軍に最も期待される役割は結果管理であるが、安定化活動の支援、軍備管理など広い意味でのテロ対策活動にも、軍でなければ果たせない部分がある。

『国際安全保障』第32巻第4号(2005年3月)、9 - 30ページ。